

(様式1)

## 令和5年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立金指小学校運営協議会長

### <本年度の目標>

- ・ 学校教育活動の4つの重点に資する取組について、子供たちや学校と直接的につながる機会をもち、学校運営に主体的に関わり、学校の実情や課題に沿った活動を行う。
- ・ 学校運営協議会委員の地域ネットワークを積極的に使って、学校と地域、保護者等、様々な年代の人たちを学校とつなぐ役割を果たすとともに、地域の組織や団体、ボランティアに参画の幅を広げ、仲間を増やす。

### <評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- ・ 学校教育目標や学校運営の基本方針について、内容の理解や共有に努めることができた。学校と地域の連携が確実に進んできていると実感している。本年度の学校運営についての4つの重点それぞれについても議論を深めることができた。特に、地域の「ひと・もの・こと」を授業や学校行事に活用する教育推進について、積極的な議論ができた。
- ・ ただ、限られた時間の中では、学校の基本方針を学年（担任）ごとの行動レベルに落とし込むことまではできなかった。

### <評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- ・ 学校運営の基本方針と学校支援活動において、学校、家庭、地域、それぞれの役割分担の明確化や見直し等については熟議が進んでいると感じた。地域の「ひと・もの・こと」を授業や学校行事に活用するために、各学年の学習内容にマッチングしやすい人や団体等を出し合ったことは、協議会としての地域ネットワークを生かした場面であった。
- ・ しかし、具体的な動きについては未だ明確ではない。学校側の負担が軽減できていない。「かなさし発見ポイントウオーク」についても、運営に参画している意識は強いが、実際の支援活動についてはまだできていないと感じている。

### <評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- ・ 「CSだより」「地域だより（さかみち）」等、情報発信はあるが、全て学校からである。協議会のメンバーが積極的に情報発信を行うまでには至っていない。委員が直接地域住民に発信することも考えてもよいのではないか。
- ・ どのような形でどのように発信すれば、地域住民に関心をもってもらえるか考えたい。

### <評価項目4> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- ・ 委員それぞれの人脈を生かしながら、その輪をさらに広くしていき、地域の人たちを巻き込んで取り組んでいくようにしたい。“仲間を増やす”という点で、何ができるかを考えていきたい。
- ・ 普段の学校教育活動（例えば技能教科やクラブ活動、地域学習など）でも、地域の人たち（保護者も含めて）と協働できることを模索していきたい。
- ・ 「学校と地域」の結びつきの一歩とし、地域の組織・団体・ボランティアを最大限に活用する。地域住民に対して、委員が直接情報発信することを考える。